



### 本号の内容

- ・学群教育のあり方に関する有識者懇談会開催
- ・e-learningシンポジウム開催
- ・筑波大学産学連携会総会開催
- ・第4回つくばテクノロジー・ショーケース開催
- ・平成16年度第2回シーズ・発表交流会で発表
- ・国際協力シンポジウム開催
- ・附属学校連携研修事業公開セミナー開催
- ・ボスニア・ヘルツェゴビナの3名の先生が附属坂戸高等学校を訪問
- ・THK学生が第21回NHK全国大学放送コンテスト3部門優勝を学長に報告
- ・第一期情報化研修を実施
- ・平成17年度帰国外国人留学生短期研究制度外国人研究者募集
- ・雇用保険料率改正
- ・個別学力検査等に伴う構内交通及び駐車場一部規制
- ・大学院生優秀論文表彰
- ・春季休業期間中の開館及び図書貸出期間
- ・平成17年度農林技術センター施設・圃場等利用申請
- ・スーパーコンピュータ大規模利用制度平成17年度募集
- ・第一回医学5専攻研究セミナー開催
- ・計算科学研究センター主催シンポジウム開催
- ・第80回，第81回陸域環境研究センターセミナー開催
- ・ベスタロッツ祭開催
- ・C S C研究会等の開催
- ・リスク工学研究会（RERM）開催
- ・春期研修講座開催
- ・教育学会第4回大会開催
- ・退職記念講演（最終講義）開催
- ・きさらぎシンポジウム開催
- ・各種表彰等

# 2005 03

2005年03号（通巻1095号）

発行：筑波大学

編集：総務・企画部

発行日：平成17年2月9日

## 「ウルトラセブンに会いたい」

その願いがかないました！

—附属病院—

附属病院・集中治療室に入院している幼児の「ウルトラセブンに会いたい」という願いが、1月22日（土）、患者家族の依頼を受けたMake A Wish of Japan（メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン）と、円谷プロダクションの協力によって叶えられました。ウルトラセブンとウルトラマンガイアが訪れた当日は、附属病院の小児外科医師、看護部等の医療チームも全面協力。幼児の楽しそうな笑顔を見ることができました。Make A Wish of Japanのメンバーと当院スタッフは、「ウルトラセブン達にももらった勇気で病気に打ち勝ってほしい。」と心から願っていました。この模様は、1月23日（日）付け読売新聞（茨城版）、朝日新聞（茨城版）及び茨城新聞の各誌に写真入りで取り上げられました。

都合により写真を省略します

Make A Wish of Japanについて：

「メイク・ア・ウィッシュ（Make A Wish）」英語で「ねがいごとをする」という意味のボランティア団体で、1980年アメリカで発足しました。3歳から18歳未満の難病とたたかっている子どもたちの夢をかなえ、生きる力病氣と闘う勇気を持ってもらいたいと願って設立された独立した非営利のボランティア団体です。URL：<http://www.mawj.org/index.html>

学群教育のあり方に関する有識者懇談会が開催される

1月31日（月）15:00より本部棟において、株式会社リクルート及び学校法人河合塾から大学進学や就職に関する専門家を招き、学群教育のあり方に関する懇談会を開催しました。リクルートからは漆崎博之、中津井泉、小山哲郎、川崎弘也の4氏を、河合塾からは神戸悟氏を迎え、本学から岩崎洋一学長をはじめ副学長、学群長、学類長等の関係教職員が出席しました。

リクルートの川崎氏からは本学に対する高校生の興味度・認知度等について、河合塾の神戸氏からは受験生の動向等について、豊富なデータに基づく説明をいただきました。その後、大学側の出席者から熱心な質問が多数あり、活発な意見交換が行われました。



株式会社リクルートと学校法人河合塾の方々

この懇談会は、12月20日に開催した産業界有識者との懇談会に引き続き開催したものであり、学外有識者との懇談を通して得られた助言・情報を学群教育の一層の充実に役立てていきたいと考えています。

e-learningシンポジウムが開催される

全学的な情報化推進の一環として、2月1日（火）、大学会館国際会議室において「e-learningシンポジウム」（目的：e-learningの考え方や先進的な事例について講演を行い、本学においてe-learningを始めるためにどうしたらよいかについて）を開催しました。学外から師玉康成教授（信州大学工学部情報工学科）、岡本敏雄教授（電気通信大学大学院情報システム学研究所）及び中野裕司教授（熊本大学総合基盤センター）を招いて、e-learningの取り組みについて講演いただきました。学内からは古瀬一隆講師（システム情報工学研究科、学術情報メディアセンター）による本学のe-learningの準備状況についての講話がありました。腰塚学術情報担当副学長、林教育・学生生活担当副学長、田中情報学類長、板野学術情報メディアセンター長はじめ160名以上の参加があり、質疑応答では活発な意見交換が行われ、盛況なシンポジウムとなりました。



この懇談会は、12月20日に開催した産業界有識者との懇談会に引き続き開催したものであり、学外有識者との懇談を通して得られた助言・情報を学群教育の一層の充実に役立てていきたいと考えています。

筑波大学産学連携会総会（第1回）が開催される

- 研究事業部産学連携課 -

1月21日をもって設立1年目を迎えた筑波大学産学連携会（TOMO）は、1月31日（月）13:00～14:00の間、産学リエゾン共同研究センターを会場に、第1回総会を開催しました。

総会には、56名（出席者・委任者含）の会員参加のもと、会を代表して産学連携会



会長秋元勇巳氏（三菱マテリアル株式会社名誉顧問）の挨拶、引き続き、本学を代表して岩崎洋一学長の挨拶の後、議事が滞りなく進行され、今後の同会の活動などについて、忌憚のない意見・要望など、活発な意見交換が行われました。

また、総会終了後、希望者は、つくば国際会議場で開催された「つくばテクノロジー・ショーケース」を見学しました。

第4回つくばテクノロジー・ショーケース - シーズ&ニーズの産直・研究フリーマーケット - が開催される - 産学リエゾン共同研究センター -

つくばテクノロジー・ショーケースは、筑波研究学園都市の地域特性を生かし、全国に向けて「つくばの受発信」を意識した分野横断的な事業として「つくばサイエンス・アカデミー」が主催者（共催：本学など26機関）となり、2002年から毎年1月に実施されています。本事業の大きな特徴は、研究・技術のシーズ、ニーズ等を発表することにより、研究者相互、企業相互、研究者・企業・行政の横断的個別交

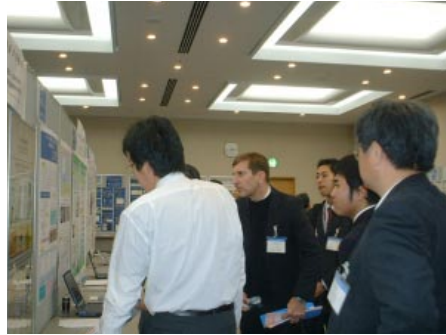
流を促進すると同時に、新たな発想に基づく研究、ベンチャー事業への契機となる場づくりを狙っていることです。

今回は1月31日(月)10:00からつくば国際会議場において、約800名の参加者のもとに盛大に開催されました。ショーケースは、インデクシングセッション(口頭による1分間の発表)、ポスターセッション及びイブニングセッションにより構成され、本学から23件出展(代表発表者は後記)したポスターセッションは、各研究者が企業等からの問いに終始、熱心に対応しました。また、同セッション出展者のうち18名は、インデクシングセッションにも参加しました。一方、イブニングセッションでは、山海嘉之教授(システム情報工学研究科)が「人間・機械・情報系の融合複合フロンティア:サイバニクスからの発想」と題して講演を行いました。このテクノロジー・ショーケースには多数の企業等関係者が来場することから、大学院部大学院課の協力を得て、本学の展示ブースに大学院研究科の入学案内パンフレット等の配布も併せて行いました。

(代表発表者)

・数理物質科学研究科: 舛本泰章教授, 中谷清治助教授, 藤田淳一助教授, 南英俊講師

・システム情報工学研究科: 椎名毅教授, 福井幸男教授, 板野肯三教授, 寅市和男教授, 岩田洋夫教授, 田中二郎教授, 大田友一教授, 安永守利教授, 磯部大吾郎助教授



ポスター発表風景

・生命環境科学研究科: 沼田治教授, 杉浦則夫助教授, 中島敏明助教授, 黒澤正紀講師, 高谷直樹講師, 本山功講師, 星野美保子氏

・人間総合科学研究科: 田神一美助教授, 馬見塚尚孝氏

平成16年度第2回シーズ・発表交流会で発表

- 東京リエゾンオフィス -

1月28日(金)に日本コンベンションセンター国際会議場(幕張メッセ)において開催された「平成16年度第2回シーズ・発表交流会」(主催:(財)千葉県産業振興センター)に、本学から、福井幸男教授(システム情報工学研究科)がテーマ「可搬型力覚ディスプレイ『ジャイロキューブ』の実用化を目指して」及び鈴木博章教授(数理物質科学研究科)がテーマ「オンチップ微小送液システム」で参加、発表しました。



福井幸男教授



鈴木博章教授

このシーズ・発表交流会は、事業化につながりそうな研究成果(シーズ)を発表・提案することを目的に開催されており、発表者は、発表後に新商品開発プランナーからアドバイスを受けたたり、交流会において参加した企業等の参加者と事業化について意見交換を行いました。企業からは活発な質疑があり、発表者は詳細な点について、丁寧に回答していました。

国際協力シンポジウム「教育の質的改善への課題 - 数学的識字力(Numeracy)の育成に焦点を当てて - 」開催される

教育開発国際協力研究センターは、1月23日(日)、「教育の質的改善への課題 - 数学的識字力(Numeracy)の育成に焦点を当てて - 」と題する国際協力シンポジウムを国際協力機構(JICA)国際総合研修所国際会議場(東京・市谷)で開催しました。

数学的識字力Numeracyは、「万人のための教育」(1990)以来、識字力Literacyと並ぶ教育協力の主要課題に数えられています。その改善方略を探ることを目的にしたこのシンポジウムは、柳孝文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長、萱嶋信子国際協力機構人間開発部基礎教育グループ長を来賓に、数学教育関係者・国際協力関係者など146名(海外26名、本学12名)が参加して実施されました。



第一部の基調講演では、異文化的視野，教育政策的視野，そして持続可能性を視野に3名の招待講演者がNumeracyとは何か，それがなぜ必要かを論じました。そこでは，経済開発機構（OECD）による学力の国際比較調査PISAで記された「生きるために必要な数学的識字力」がNumeracyであるとの見解が提示されました。そして，その育成は開発途上国各国の状況において特に求められることが明らかにされました。

第二部では，日本における義務教育普及過程ではNumeracy観が計算技能から生活に役立つ思考力へと変遷したことが指摘されました。

第三部では，開発途上国の招待講演者2名から各国における数学的識字力の育成課題が述べられ，その改善のために日本の授業研究と指導法が広く学ばれていることが報告されました。

第四部のパネルディスカッションでは，現在進行中のJICA基礎教育協力プロジェクトの16件中12件が数学的識字力育成を課題にしていることが紹介され，実施されてきた数々の個別協力モデルを体系化することの必要性が指摘されました。

開発途上国国際協力センター 後援 国際協力機構（JICA）、日本科学教育学会



さらに途上国の文化状況を前提に，限られた予算で実施する協力方略として日本と途上国の拠点大学を介しての南南協力の有効性が提案されました。

Innumeracyが開発途上国の自立への障害となっていることを指摘し，その改善の必要を提言する柳孝文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長

#### 附属学校連携研修事業公開セミナーが開催される

1月29日（土）9:00～12:00，附属久里浜養護学校で「自閉症児のライフステージにおける家庭の支援，学校教育の在り方」というテーマのシンポジウムが開催され，大阪等からの参加者を含め，学校，就学前施設，福祉作業所，教育相談関係の方や保護者等，約90名が参加しました。

シンポジストは3名で，乳幼児期の自閉症児の療育相談に携わっている横須賀市障害者福祉センター小林幸恵氏からは，乳幼児期段階からの早期発見と対応，保護者の心情や家庭状況等を踏まえての適切な援助の在り方等について，また，障害児をもつ父親が集まって作った町田おやじの会の山下久仁明氏からは，自閉症の我が子との歩み，そして学童保育を開所した経緯等について，さらに，スワンペーカリー銀座店長の藤野広一氏からは，障害者の採用時の面接に当たっては，自力通勤，周りの人との関係が築けるか，あいさつができるかという視点で行い，仕事上のこと



では，同僚からの支えのなかで働く力を身に付けていること等について，それぞれ話題が提供されました。

その後の協議には同校教諭も加わり，学校や家庭で大切にしてほしいことなどが話し合われ，自閉症の幼児児童，青年，成人を支援していく人々の輪が広まるきっかけとなった半日となりました。

#### ボスニア・ヘルツェゴビナの3名の先生が附属坂戸高等学校を訪問

12月14日，教育開発国際協力センター（CRICED）の活動の一環で，ボスニア・ヘルツェゴビナから来日しているValentina MINDOLJEVIC先生，Ljubomir PETKOVIC先生，Karmelita PJANIC先生の3名が附属坂戸高等学校を訪れました。

一行は，3，4限に情報Aの「知的所有権の保護」と「セキュリティと個人の責任」の授業を，5，6限には数学の「三角比」の授業をそれぞれ見学しました。



情報Aの授業では、コンピュータで作業している生徒と英語でコミュニケーションをとる機会もありました。

授業見学の後には、一行と同校の教員との間で話し合いの場が設けられ、お互いの国の教室文化や教育行政、入試制度など、幅広いことについて意見交換が行われました。

筑波放送協会学生が第21回NHK  
全国大学放送コンテスト3部門優  
勝を岩崎学長に報告

1月18日(火)、芸術系サークル連合会顧問教員武若聡助教授(システム情報工学研究科)と筑波放送協会(THK)所属学生14名が岩崎洋一学長を表敬訪問しました。昨年12月4、5日に京都府京都アスニー・ホールで行われた第21回NHK全国大学放送コンテスト本選の結果、芸術系サークル連合所属の筑波放送協会が、朗読部門、ニュース部門及び映像CM部門の3部門で優勝、さらに2部門で準優勝、1部門で3位という輝かしい成績を収めました。3部門での同時優勝は史上初、また映像CM部門での優勝は3年連続(12月22日発行の「速報つくば:2004-23(通巻1092号)」



を参照)となります。

日頃からの積極的な活動の積み重ねと、サークル内での切磋琢磨が実を結んで好成绩を得ることができたとの報告があり、学長からは、大変に喜ばしい成果であり今後も頑張ってもらいたいとの言葉が掛けられ、和やかな雰囲気での優勝報告となりました。

第IV期情報化研修を実施  
- 総務・企画部情報化推進室 -

平成16年度第IV期情報化研修として、PHP基本コースを実施しました。

PHP基本コースは、2月1日～3日の3日間、本部棟会議室を会場に11名が受講しました。このコースは、インタラクティブなホームページ作成に必要なHTML言語及びプログラミングを行うPHP言語の基礎を習得するコースです。

民間のシステムエンジニアを講師に招き、実践的な内容となっています。



(独)日本学生支援機構平成17年  
度帰国外国人留学生短期研究制  
度外国人研究者の募集について

目的: アジア, 中南米, 中東, アフリカ等の開発途上国・地域から日本に留学し、現在、自国において教育、学術研究又は行政の分野で活躍している者(帰国留学生)に対し、日本の大学において、短期研究を行う機会を提供する。

資格・条件: 1 上記開発途上国の国籍を有する帰国留学生で、自国で教育、学術研究又は行政のいずれかの職に就いている者(民間企業に従事している者は除く。)

2 日本留学時の在留資格が「留学」であった者

3 日本の大学又は大学院を卒業している者

4 2005年4月1日現在で満45歳以下の者で、帰国後5年以上を経過している者

5 日本への入国査証の取得が確実な者

期間: 90日以内(2005年7月1日～2006年3月31日の間)

募集人数: 国公立大学全体で55名程度

支援内容: 1 往復航空券、成田空港～大学間の交通費

2 滞在費(日額9,800円)

3 国内研究旅費(上限43,000円)

学内締切: 3月10日(木) 支援室等は別途設定

問 合 せ 先：対応支援室等又は研究事業部研究事業課（研究交流（TEL2936））  
 申請書は、2月以降日本学生支援機構ホームページからダウンロード可能です。  
 URL：http://www.jasso.go.jp/

雇用保険料率の改正について  
 - 組織・人事部人事課 -

平成16年4月1日の法人化に伴い本学職員においても雇用保険法が適用になり 現在、後記の一般保険料額表により被保険者負担分の雇用保険料額（賃金総額の1000分の7）を預かり、納付していますが、平成17年4月1日からは、次のように改正されず。

なお、不明な点がありましたら、組織・人事部人事課福祉第一係（TEL2097）までお問い合わせください。

雇用保険料率の改正

平成17年4月1日以降、雇用保険料率が1000分の19.5に改正されます。（平成17年3月31日まで1000分の17.5）

このうちの被保険者負担分の雇用保険料率は、現在より1000分の1引き上げられ、1000分の8になり、被保険者の方が負担すべき雇用保険料額は、被保険者の賃金総額に1000分の8を乗じて得た額になります。

一般保険料額表の廃止

平成17年4月1日以降、一般保険料額表（次表）が廃止されます。

一般保険料額表（平成17年3月31日まで適用）

等級	賃 金 総 額		被保険者負担一般保険料額
	92,000円未満		賃金総額×7/1000 (1円未満切り捨て)
1	92,000円以上	96,000円未満	658円
2	96,000円以上	100,000円未満	686円
3	100,000円以上	104,000円未満	714円
4	104,000円以上	108,000円未満	742円
5	108,000円以上	112,000円未満	770円
6	112,000円以上	116,000円未満	798円
7	116,000円以上	120,000円未満	826円
8	120,000円以上	124,000円未満	854円
9	124,000円以上	128,000円未満	882円
10	128,000円以上	132,000円未満	910円
11	132,000円以上	136,000円未満	938円
12	136,000円以上	140,000円未満	966円
13	140,000円以上	145,000円未満	998円
14	145,000円以上	150,000円未満	1,033円
15	150,000円以上	155,000円未満	1,068円
16	155,000円以上	160,000円未満	1,103円
17	160,000円以上	165,000円未満	1,138円
18	165,000円以上	170,000円未満	1,173円
19	170,000円以上	175,000円未満	1,208円
20	175,000円以上	180,000円未満	1,243円
21	180,000円以上	186,000円未満	1,281円
22	186,000円以上	192,000円未満	1,323円
23	192,000円以上	198,000円未満	1,365円
24	198,000円以上	204,000円未満	1,407円
25	204,000円以上	210,000円未満	1,449円
26	210,000円以上	216,000円未満	1,491円
27	216,000円以上	223,000円未満	1,537円
28	223,000円以上	230,000円未満	1,586円
29	230,000円以上	238,000円未満	1,638円

3 0	238,000円以上	246,000円未満	1,694円
3 1	246,000円以上	255,000円未満	1,754円
3 2	255,000円以上	264,000円未満	1,817円
3 3	264,000円以上	274,000円未満	1,883円
3 4	274,000円以上	284,000円未満	1,953円
3 5	284,000円以上	295,000円未満	2,027円
3 6	295,000円以上	306,000円未満	2,104円
3 7	306,000円以上	318,000円未満	2,184円
3 8	318,000円以上	330,000円未満	2,268円
3 9	330,000円以上	343,000円未満	2,356円
4 0	343,000円以上	356,000円未満	2,447円
4 1	356,000円以上	370,000円未満	2,541円
4 2	370,000円以上	384,000円未満	2,639円
4 3	384,000円以上	399,000円未満	2,741円
4 4	399,000円以上	414,000円未満	2,846円
4 5	414,000円以上	430,000円未満	2,954円
4 6	430,000円以上	447,000円未満	3,070円
4 7	447,000円以上	465,000円未満	3,192円
4 8	465,000円以上	484,000円未満	3,322円
	484,000円以上		賃金総額×7/1000 (1円未満切り捨て)

個別学力検査等（前期日程及び後期日程）実施に伴う構内交通及び駐車場の一部規制について

- 学群・学生部入試課 -
- 財務部資産管理課 -

平成17年度個別学力検査等が次により行われます。当日は受験者送迎用の自家用車や臨時バス等により、試験場周辺はかなりの混雑が予想されますので、十分注意のうえ通行願います。

また、試験実施当日は、構内のループ道路及び駐車場を一部規制しますので、ご協力願います。

#### 構内交通・駐車場の規制日時

前期日程試験：2月25日（金）8:00～19:00

26日（土）同上

後期日程試験：3月12日（土）同上

#### 駐車場の規制内容

次の駐車場は、受験者送迎用（自家用車）車両も利用します。

1 6 本部外来駐車場（終日ゲートオープン）

K 5 仮設本部棟南駐車場（同上）

K 25 仮設第三学群北駐車場（同上）

2 4 工学系駐車場（同上）

5 4 医学北駐車場（同上）

K 7 仮設体芸西駐車場（同上）

2 3 中地区駐車場

3 7 南地区駐車場

#### 図書館情報専門学群東駐車場

次の駐車場は臨時（貸切り）バス専用駐車場としますので、敷地の半分を駐車禁止とします。

なお、駐車禁止区域への駐車は、バスの運行に多大な支障を来たすので、特にご注意願います。

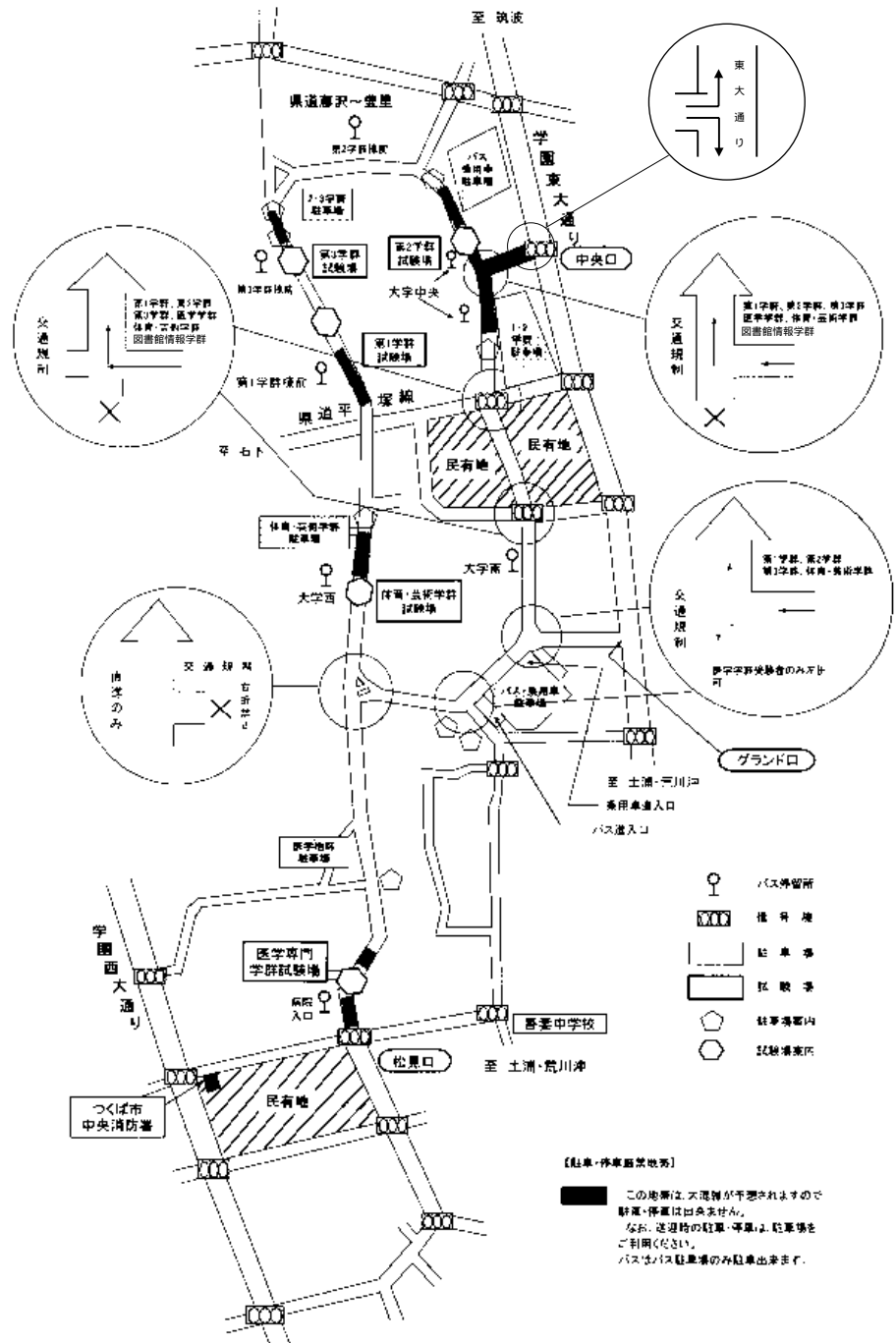
2 3 中地区駐車場

3 7 南地区駐車場

上記駐車場を利用している職員等については、当該駐車場の空スペースに駐車願います。



構内交通・駐車場の規制案内図



大学院生優秀論文表彰について  
- 大学院部大学院課 -

博士課程委員会（旧博士課程研究科）では、昨年度に引き続き、博士課程における優秀な学位論文等に対し博士課程長が表彰することになりました。

これは、学位論文等において優れた成績を修めた者を表彰することによって、広く本学大学院学生の修学・研究活動の活性化及び課程修了の促進に資するとともに、今後の研究活動等を激励することを目的とするもので、当該博士研究科で審査の上、研究科長から博士課程長に推薦し、博士課程委員会の議を経て、博士課程長が被表彰者を決定します。

また、表彰式と併せて、当該優秀論文に関する発表会も開催します。

本学大学院生の研究内容を知る良い機会となりますので、ぜひご参加ください。

大学院生優秀論文の表彰式及び発表会の日程等は次のとおりです。



日 時：2月21日（月）15:00～  
場 所：総合研究棟A 1階公開講義室  
問合せ先：大学院部大学院課（TEL2236）

春季休業期間中の開館時間及び  
図書の貸出期間について

- 附属図書館 -

春季休業期間中の開館時間及び図書の貸出期間は次のようになります。  
開館時間及び貸出受付時間

図書館	開館時間	貸出受付時間	春季休業
中央 体育・芸術 図書館情報学	9:00～17:00	9:00～16:30	3/10～4/7
医学	9:00～20:00	9:00～19:30	
大塚	9:00～17:00	9:00～17:00	3/5～4/7

土曜日・日曜日・祝日は休館します。

貸出期間(全館共通)

3月10日（木）～29日（火）までの間に一般貸出および更新を受けた図書の貸出期間は、通常の3週間より長くなります。

貸出日	3/10, 11	3/14, 15	3/16～18	3/22～24	3/25, 28, 29
返却日	4/13	4/14	4/15	4/18	4/19

返却期限を確認し、延滞のないように注意してください。不明な点がございましたら、各館のメインカウンターまでお問い合わせください。

平成17年度農林技術センター施設・圃場等の利用申請について

農林技術センターでは平成17年度にセンターを利用して実施する研究について、必要となる施設・圃場等の利用申請を受け付けます。

農林技術センター事務室にある所定の申請用紙に必要事項を記入の上、3月4日（金）までに同事務室へ提出してください。利用許可は申請状況により調整の上、本年度末までに申請者に連絡します。

なお、平成17年度から農林技術センター施設・圃場の利用にかかわる実費分について利用者に負担いただく方向で検討を進めております。具体的な金額が決定しましたら改めて連絡いたします。また、利用可能な施設・圃場の見取り図及び申請書の見本は<http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/>の「センター利用案内」でご確認ください。

問合せ先：農林技術センター事務室（TEL2545）

スーパーコンピュータ大規模利用制度の平成17年度募集について

研究上の理由から大規模な科学技術計算の実施を必要とするユーザーの計算需要に応え、学術情報メディアセンターのスーパーコンピュータシステムの有効利用を図ることを目的として、スーパーコンピュータ大規模利用制度を試行的に実施いたします。

募集スケジュール及び利用内容は、次のとおりです。特に、この制度の規程（問合せ事項）とシステム利用制限については、内容を十分にご理解の上応募願います。

スケジュール

申請書提出：2月14日（月）～25日（金）必着

応募グループによるプレゼンテーション実施：

日時：3月1日（火）13:30～

場所：学術情報メディアセンターB棟4階412室（一般演習実習室）

内容：研究概要及び必要計算機資源に関して

時間：10分程度/グループ

この会合には、応募者以外の方が参加されても結構です。

審査結果通知：3月2日（水）以降

事務手続き：3月2日（水）～18日（金）

申請事項：A4用紙1～2枚程度で形式は問いません。

1 研究課題名

- 2 代表者及び構成メンバー（氏名，所属）  
構成メンバーは，実際にシステム利用される方だけを記載してください。
- 3 代表者の連絡先（電話，E-mail）
- 4 計算内容
- 5 申請する計算資源，利用種別（CPU時間及びディスク容量，並列実行時の予定PE台数）
  - ・CPU時間は，[PE・月]を単位として記入する。  
例）8[PE・月]とは，1PEジョブを8ヵ月間実行又は4PEジョブを2ヵ月間実行などのように考えてください。
  - ・ディスク容量は，期間内の最大値[GB]を記入する。  
今回の採択グループの合計が，720[PE・月]，500[GB]の範囲内となるように，スーパーコンピュータ運用ワーキンググループで調整させていただきます。

#### 利用種別と負担金額

通年利用：平成17年4月～平成18年3月 63万円（消費税含）

前期利用：平成17年4月～平成17年9月 31.5万円（同）

- ・利用期間は，平成17年4月1日（金）から各利用期間の運用末日までです。
- ・利用開始の前日に，本制度用のアカウントに関する書類を発送します。
- ・負担金請求は，グループ代表者となります。また，支払科目は，基盤教育研究費が望ましいですが，科学研究費補助金等でも利用できます。

#### 負担金請求時期

通年利用グループ：平成17年7月及び平成18年1月の2回分割

前期利用グループ：平成17年7月

- ・各々の時期に，負担金31.5万円（消費税含）が請求されます。  
本制度の趣旨から，利用期間の途中で利用を取りやめても，負担金及び消費税分はお返ししません。

#### その他

本制度利用に関する規則，システム利用制限等を，次のホームページに掲載しております。これらの内容を十分にご理解の上，ご応募願います。

URL：<http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/large/index.html>

- ・本制度の規定

URL：[http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/large/prj\\_kitei.pdf](http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/large/prj_kitei.pdf)

- ・本制度のシステム利用制限

URL：[http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/large/prj\\_system.pdf](http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/large/prj_system.pdf)

問い合わせ，申請書提出先

学術情報メディアセンタースーパーコンピュータ大規模利用担当（TEL2452）

E-mail：[mimosa-staff@cc.tsukuba.ac.jp](mailto:mimosa-staff@cc.tsukuba.ac.jp)

#### 第一回医学5専攻研究セミナーの開催について

日 時：2月16日（水）17:30～18:30

場 所：臨床講義室C

講演題目：放射光を用いた新しい生体イメージング

講演者：武田徹講師（人間総合科学研究科，先端応用医学専攻，応用放射線医学分野）

要 旨：X線は，1895年発見当初から生体内を可視化できる優れた手法として広く医療の場で用いられ，今日では3次元CTも臨床の場に導入されている。一方，加速器から発生し，白色性・直線偏向性を有す高輝度X線（放射光）を用いた新しい計測技術が，生命科学を含めた広範な研究領域で用いられ始めている。

同セミナーでは，被射体を透過した後の吸収差からX線像を形成する従来の画像化手法ではなく，X線の屈折や蛍光等の物理現象を利用した新しい生体イメージングを紹介します。

問合せ先：原田ちひろ E-mail：mo04e387@md.tsukuba.ac.jp  
 皆様の参加をお待ちしております。

計算科学研究センター主催シンポジウム「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」の開催について

計算科学研究センターで「PACS-CSプロジェクト」が平成17年度より発足の見込みとなりました。同プロジェクトでは、超並列計算機CP-PACSに替わる次期高性能計算機システムPACS-CS(Parallel Array Computer System for Computational Sciences)を開発・製作し、それをういて素粒子・宇宙、物質・生命、地球生物環境等の科学諸分野における計算科学研究の飛躍的推進が図られます。

また、同センターでは、科研費特別推進研究「FIRSTプロジェクト」が平成16年度に開始され、大規模なHMCS(異機種融合型計算機)を開発・製作とその活用により、宇宙第一世代天体の起源の解明を図る研究が推進されています。

このシンポジウムは、計算科学全般並びに宇宙物理学分野の研究を推進するこれらのプロジェクトの発足にあたり、広く関連分野の研究者にその内容を紹介すると同時に、関連諸分野の招待講演を行い、計算科学による新たな知の発見・統合・創出の方向を探るものです。

第一回「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」シンポジウム  
 - PACS-CSプロジェクトとFIRSTプロジェクト -

日 時：2月16日(水) 13:30～18:00  
 17日(木) 10:00～18:00

場 所：大学会館国際会議室

登 録：参加費は無料ですが、出席状況の把握及び懇親会(2月16日(水) 18:30より)の準備の都合上、シンポジウムweb pageより、登録をお願いします。

問合せ先：計算科学研究センター主任専門職員 山田研二 (TEL6486)  
 E-mail：kyamada@sec.tsukuba.ac.jp

U R L：http://www.ccs.tsukuba.ac.jp/workshop/sympo-050216/

プログラム：

2月16日(水)

13:30～14:00

筑波大学計算科学研究センターの研究計画

- PACS-CSプロジェクトの概要とFIRSTプロジェクトについて -

宇川彰(計算科学研究センター, 数理物質科学研究科, 物理学専攻)

14:00～14:45

超並列クラスタPACS-CSの開発・製作

- Parallel Array Computer System for Computational Sciences -

朴 泰祐(計算科学研究センター・システム情報工学研究科, コンピュータサイエンス専攻)

14:45～15:45

ナノ物質の構造と機能のシミュレーション

大野隆央(物質・材料研究機構, 計算材料科学研究センター)

16:15～16:50

PACS-CSにおける物質・生命科学

押山淳(計算科学研究センター, 数理物質科学研究科, 物質創成先端科学専攻)

16:50～17:25

PACS-CSにおける原子・分子・光科学

矢花一浩(計算科学研究センター, 数理物質科学研究科, 物理学専攻)

17:25～18:00

生物分子系統進化プロジェクト

橋本哲男(生命環境科学研究科, 構造生物学専攻)

18:30～懇親会(大学会館レストラン「プラザ」)

2月17日(木)

10:00~10:45

FIRSTプロジェクトの概要

- Elucidation on the Origin of FIRST Generation Objects by HMCS-E -  
梅村雅之(計算科学研究センター, 数理物質科学研究科, 物理学専攻)

10:45~11:20

FIRSTによる宇宙輻射流体力学

須佐元(立教大学理学部)

11:20~11:55

PACS-CSにおける素粒子物理

青木慎也(数理物質科学研究科, 物理学専攻)

13:30~14:30

ポストゲノム時代の計算生命科学

郷 信広(日本原子力研究所計算科学技術推進センター)

14:30~15:05

PACS-CSにおける物質・生命科学 : チトクローム酸化酵素におけるプロトン  
伝導機構の電子レベルでの検討

白石賢二(数理物質科学研究科, 物質創成先端科学専攻)

15:05~15:40

計算メディアの新たな展開に向けて

大田友一(計算科学研究センター, システム情報工学研究科, 知能機能システ  
ム専攻)

16:00~17:00

地球シミュレーターによる計算宇宙物理分野の成果

松元亮治(千葉大学理学部)

17:00~17:35

THORPEXと気象データベース構築プロジェクト

田中博(計算科学研究センター, 生命環境科学研究科, 地球環境科学専攻)

閉会に換えて

宇川彰

---

第80回, 第81回陸域環境研究センターセミナーの開催について

第80回陸域環境研究センターセミナー

陸域環境研究センターでは, 不定期にセミナーを開催しております。

第80回では, 東北大学名誉教授の近藤純正先生をお招きして, 講演していただきます。どなたでも自由に参加いただけますので, 興味のある方はお気軽にお越しください。

日 時: 2月24日(木) 10:00~12:00

場 所: 陸域環境研究センター会議室

講 演 者: 近藤純正(東北大学名誉教授)

題 目: 温暖化問題と都市気温 - 観測所のありかた

関連サイト: [http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/new/Whatsnew/seminar04\\_10.html](http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/new/Whatsnew/seminar04_10.html)

第81回陸域環境研究センターセミナー

陸域環境研究センター(旧水理実験センター)のスタッフとして, 創設以来, 長年にわたり貢献されてきました池田宏 助教授(陸域環境研究センター, 生命環境科学研究科)が今年の3月でご退職されることになりました。

これを記念して, 30年間にわたる研究成果を踏まえた実験観察会を, 2日間にわたり, 開催いたします。

日 時: 3月4日(金) 10:30~16:30

5日(土) 10:30~16:30

場 所: 陸域環境研究センター

テ - マ: 地形環境の成り立ちを実験で探る



解説者：池田宏助教授

内容：3月4日（金）「山から川へ」：岩山，火山，岩川  
5日（土）「川から海へ」：石川，砂川，浜，磯

参加費：1日1,000円（昼食代など）

申込方法：氏名，所属，連絡先及び参加日時を明記の上，陸域環境研究センター事務室に申し込みください。

関連サイト：[http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/new/Whatsnew/seminar04\\_11.html](http://www.suiri.tsukuba.ac.jp/new/Whatsnew/seminar04_11.html)

問合せ先：両セミナー共，陸域環境研究センター事務室（TEL2532）

E-mail:jimu@suiri.tsukuba.ac.jp

ペスタロッツ祭の開催について  
- 教育学系 -

日時：3月10日（木）13:30～16:35

場所：大学会館国際会議室

研究発表：ハイパーメディア教材の教育利用

- 学習指導方法の多様化にむけて -

李禧承（教育学研究科5年）

研究発表：米国におけるサービス・ラーニングの理論と方法

唐木清志講師（人間総合科学研究科）

特別講演：江戸時代は生涯学習社会であった

- 教育史再構成の試み -

入江宏（宇都宮大学名誉教授）

問合せ先：吉田武男 E-mail:joschida@human.tsukuba.ac.jp

皆様の参加をお待ちしております。

比較市民社会・国家・文化特別  
プロジェクト研究会等の開催に  
ついて



比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは次の研究会等を開催します。  
皆様の参加をお待ちしております。

第2回「アジアの宗教運動と市民社会」研究会

日時：2月18日（金）15:30～17:00

場所：文科系修士棟4階会議室8A409

演題：MILLENNIAL MOVEMENTS AND CIVIL SOCIETY IN BANGLADESH（英語の講演）

講演者：Hussain MD Akbar（日本学術振興会外国人特別研究員）

第29回CSCセミナー

日時：3月1日（火）16:45～18:15

場所：人文社会学系棟B721

演題：中国の精神保健福祉政策

講演者：土屋英雄教授（人文社会科学研究科）

関本克良（天理大学）

第3回「アジアの宗教運動と市民社会」研究会

日時：3月18日（金）15:30～17:00

場所：文科系修士棟4階会議室8A409

演題：近代日本の公共宗教 Public Religion in Modern Japan（日本語の講演）

講演者：津城寛文教授（人文社会科学研究科，哲学・思想専攻）

共催：独立行政法人 日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」（多元的共生社会に向けた知の再編）「多元的共生に関する国際比較」

連絡先：岩田拓夫 E-mail: iwata@social.tsukuba.ac.jp

第23回リスク工学研究会  
（RERM）の開催について

システム情報工学研究科リスク工学専攻では，定期的にはリスク工学研究会を開催しております。第23回の開催は次とおりです。

参加は自由ですので，研究科の教職員・学生だけでなく，興味のある多数の方々の参加をお待ちしています。

日 時：3月1日（火）17:00～19:00  
場 所：総合研究棟B 1F公開講義室  
講 演 1：災害時における被害緩和のための被災状況検出技術  
宇都有昭助手（東京工業大学大学院総合理工学研究科）  
講 演 2：救急車システムのモデル化とその応用  
稲川敬介氏（南山大学大学院経営学研究科）  
担 当：システム情報工学研究科リスク工学専攻 亀山啓輔，鈴木勉  
問合せ先：村尾修（TEL，FAX5370：www.murao.net）  
RERMの趣旨等については，次をご覧ください。  
URL：http://www.risk.tsukuba.ac.jp/meeting/rerm/index.html

---

春期研修講座の開催について  
- 附属学校教育局 -

附属学校教育局では，教職員研修の一環として春期研修講座を次により開催します。

参加は自由ですので，多数のご参加をお待ちしています。

日 時：3月25日（金）13:00～16:30

場 所：東京キャンパスG501教室（文京区大塚3 - 29 - 1）

交通案内：東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車5分

演題 1：13:00～14:30 教育の脳科学を目指して

酒井邦嘉助教授（東京大学）

演題 2：15:00～16:30 学校における「法教育」の動きと今後について

- 法務省「法教育研究会」報告書を中心に -

江口勇治教授（人間総合科学研究科）

対 象：教職員

主 催：附属学校教育局

連絡先：附属学校教育局指導第一課（TEL03-3942-6809）

---

教育学会第4回大会の開催について

開 催 日：3月19日（土）

会 場：附属小学校

プログラム：受付開始 9:30

自由研究発表 10:00～12:00

総会 13:30～14:20

シンポジウム 14:30～17:30

総合的な学習の時間と「確かな学力」

シンポジスト

服部次郎教授（附属坂戸高等学校長，人間総合科学研究科）

館潤二教諭（附属中学校）

岩間敏彦（茗溪学園）

指定討論者

佐野享子助教授（ビジネス科学研究科）

森田和良教諭（附属小学校）

司会

坪田耕三教諭（同）

窪田眞二教授（人間総合科学研究科，教育）

連 絡 先：教育学会事務局（教育学系内：TEL4598）

E-mail：tsukuedu@human.tsukuba.ac.jp

---

退職記念講演（最終講義）の開催について

3月31日をもって退職される教員の退職記念講演（最終講義）が次のとおり開催されます。多数のご来聴をお待ちしております。

大西治男教授（システム情報工学研究科，計量ファイナンス・マネジメント専攻）

演 題：規則性の発見  
- 変数選択問題の解決を例として

日 時：3月2日（水）14:00～15:00

場 所：第三学群A棟3A304

問合せ先：佐藤亮社会工学類長

松本光弘教授（人間総合科学研究科，体育）

演 題：コーチとしての私のメモ帳から

日 時：2月23日（水）12:15～13:30

場 所：大学会館ホール（3F）

前田潮教授（人文社会科学部研究科，歴史・人類学専攻，先史学・考古学コース）

演 題：考古学と夢

日 時：2月15日（火）16:00～17:30

場 所：第一学群D棟1D204

問合せ先：常木晃（TEL4043）E-mail：tsunebo@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

18:00より本部棟1Fレストランで記念パーティーを執り行います。こちらの参加もお待ちしております。

附属学校教育局：

金子守教授（人間総合科学研究科）及び飯野順子教授（同）

日 時：3月1日（火）16:30～18:30

場 所：東京キャンパスG館2階G204

講 演：16:30～17:30 教材探しの旅，教材との出会い

金子守教授

17:30～18:30 特別支援教育の新たな展開の時に

- 就学（入学）相談からみた附属学校の使命と役割 -

飯野順子教授

送別会

日 時：3月1日（火）18:40～20:00

場 所：東京キャンパスE館1階第一会議室

問合せ先：附属学校教育局（人間総合科学研究科）江口勇治

（TEL，FAX03-3942-6403）

E-mail：guchiyu@human.tsukuba.ac.jp

きさらぎシンポジウムの開催に  
ついて - 物理学系 -

物理学系では，3月31日をもって退職なさる先生方の記念事業として，「きさらぎシンポジウム」を開催します。多数の方々のご来聴をお待ちしております。

日 時：3月3日（木）10:30～17:20

場 所：大学会館ホール

プログラム：

10:30～12:05：座長 舛本泰章

10:30～10:40 はじめのことば

三明康郎教授（数理物質科学研究科）

10:45～11:20（演題未定）

森岡弓男教授（同）

11:25～12:00 物理学生実験

富永昭 助教授（同）

13:30～14:50：座長 長照二

13:30～14:05 磁気共鳴と共に何年？

大久保宜昭講師（同）

14:10～14:45 蝦蟇からGAMMAへ

- プラズマ研究の歩み -

板倉昭慶助教授（同）

15:10～17:20：座長 金谷和至

15:10 ~ 15:45 偏極イオン源とともに

田岸義宏教授(同)

15:50 ~ 16:25 振り返れば

滝川紘治教授(同)

16:40 ~ 17:00 : 学長挨拶 岩崎洋一

17:05 ~ 17:15 : おわりのことば 宇川彰

次のアドレスに情報がありますので、ご覧ください。

URL : <http://hep-www.px.tsukuba.ac.jp/~ukegawa/kisaragi/>

黒田誠講師が(財)テルモ科学技術振興財団一般研究助成に採択される

黒田誠講師(人間総合科学研究科・社会環境医学専攻)は、「感染成立に關与する黄色ブドウ球菌の接着因子発現解析」によりテルモ科学技術振興財団の2005年度一般研究助成に採択されました。



テルモ科学技術振興財団は、生命科学に關わる素材、生物工学、生体防御機構、生体計測、病態生化学等各分野の科学技術に關する研究の助成・振興を行っています。

黄色ブドウ球菌のゲノム解読を世界に先駆けて報告し、ワクチン開発に当たって最も有用なターゲットを提示するポストゲノム解析として評価されたものです。

三輪佳宏講師が倉田記念日立科学技術財団研究助成に採択される

三輪佳宏講師(人間総合科学研究科、分子情報・生体統御医学専攻、基礎医学)が、研究課題「生細胞内分子動態を可視化する蛍光技術の開発」により、倉田記念日立科学技術財団の平成16年度第37回研究助成対象者に選出されました。



この助成事業は、化学(分子生物学を含む。)、物理、電気・電子、機械、情報分野で基礎的、応用的な研究を行う、比較的若い研究者を対象としたものです。

なお、この研究は、産学リエゾン共同研究センターの「産学連携共同研究プロジェクト」の一環として行われているものです。

山本哲哉講師が財団法人安田記念医学財団癌研究助成を受賞

山本哲哉講師(人間総合科学研究科、臨床医学、脳神経外科)が申請課題「悪性脳腫瘍に対する中性子捕捉療法の臨床研究」により、財団法人安田記念医学財団癌研究助成を受賞しました。



この助成は、癌の予防と治療に關する研究に従事し、癌撲滅事業に熱意のある研究者を対象としており、本年度は応募総数67施設から、7件のみ採択となりました。

久保野りえ教諭が語学教育研究所パーマー賞を受賞

久保野りえ教諭(附属中学校)が、語学教育研究所(通称は語研)から「パーマー賞」を受賞しました。

語研はわが国で最も古い歴史を持つ英語教育研究団体で、初代研究所長Harold E. Palmer博士(1877-1949)の功績を記念して「パーマー賞」を定めています。



この賞は、わが国の外国語教育の改善発展のために顕著な成果を収めた個人・学校等に対して贈られます。久保野教諭はその卓越した指導技術と指導理論を評価されての受賞です。

なお、60年に亘る賞の歴史の中で、40余りの個人・学校が受賞していますが、同校からは1956年度の池永勝雅氏(故人)、1998年の蒔田守氏に次いで久保野氏は3人目の受賞者となり、特に多くの受賞者を輩出しています。



田淵経司講師が Who's Who in Science and Engineering, 2005-2006に掲載される



田淵経司講師（人間総合科学研究科，機能制御医学専攻，）が，Who's Who in Science and Engineering, 2005-2006に掲載されました。虚血性内耳障害に関する研究を継続しており，現在，音響性障害その他の内耳障害全般の障害進行メカニズムの解明，治療法の検討を進めています。一連の研究が認められての掲載となりました。

酒井宏助教授指導下の情報学類4年生速水悠紀氏がベリショートフィルムフェスティバルinモバイルでグランプリ賞を受賞

酒井宏 助教授（システム情報工学研究科）指導下の情報学類4年生速水悠紀氏が，ベリショートフィルムフェスティバルinモバイルにて，約100件の応募の中からグランプリ賞（賞金30万円）を受賞しました。



このフェスティバルは，CAVE ベリショートフィルム・フェスティバル実行委員会が主催し，水戸短編映画祭が協力するもので，携帯電話の映像コンテンツを対象にしたものです。



グランプリ受賞作品

附属桐が丘養護学校小学部5年の早坂眞優さんが第37回論文作文募集の作文・小学生の部で努力賞に入選

附属桐が丘養護学校小学部5年の早坂眞優さんが，財団法人音楽鑑賞教育振興会主催の第37回論文作文募集に応募し，全国の小・中・高校生から12,558点もの応募の中で，作文・小学生の部で「努力賞」に入選しました。

今回の全体テーマは「学校と音楽」，中でも小学生の部は「音楽大好き」というテーマで，早坂さんは学校の音楽の授業で学んだ数々の歌について感じたことを豊かに表現し，音楽に対する思いや夢を素直に書き表しました。1月23日にサントリーホールで行われた表彰式では，厳かな雰囲気の中，緊張しながらも晴れやかな笑顔を見せてくれました。



---

「速報つくば」からのお知らせ

「速報つくば」の次回（通巻1096号）の発行は2月23日（水）、原稿締切りは2月17日（木）となります。

学内行事、イベント情報及び教職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお、「速報つくば」への寄稿に際しては、次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については、受賞者氏名、所属、受賞名、簡単な賞の説明、受賞対象論文名等（掲載誌のページ等は省略願います。）とし、授賞式の日時、場所等については、必要がある場合等を除き、省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は、なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用させて頂いた原稿は、Web上に掲載しますので、ご了承願います。また、文教速報（官庁通信社発行）、文教ニュース（文教ニュース社発行）及びSTUDENTS（学群・学生部発行）等からの情報提供依頼があった場合は、掲載情報（写真等を含む。）を提供しますのでご承知おきください。

「速報つくば」のhtml版及びPDF版は、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース、写真の提供及び掲載内容へのご意見は広報課（TEL2065，FAX2014）へお願いします。

E-mail：sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿された方には、「速報つくば」より原稿受付等の返信メールをお送りしますので、ご確認ください。なお、返信メールが届かない場合は、お手数でも広報課までご連絡いただきますようお願いいたします。